活躍する同窓の姿



児童発達支援・放課後等デイサービス
Ambition Kids 代表　**岡田 隆造 氏**

大学女子バスケットボール部監督として培った豊富な経験をもとに、「姫路イーグレッツ」ヘッドコーチとして未来への明確なビジョンをチームに根付かせ、兵庫県初のWリーグ（女子日本リーグ）参入を成し遂げた。スポーツによる地域コミュニティーや地域産業の活性化を果たし、現在は、大阪府で豊かな共生社会の実現に向けた児童発達支援・放課後等デイサービス事業を展開。
大阪国際大学短期大学部　名誉教授（1981年　日体大 卒）

◆指導者との出会いで才能を開花◆

岡田さんは、姫路市北部の香寺中学校でバスケットボール部の選手として活躍し、陸上競技の県大会でも走り高跳びで準優勝するなど部顧問の先生の方針で、のびのびとスポーツに親しみながら中学校三年生の時にはリングをつかめるほどに才能を伸ばしていったそうです。高校は地元の県立香寺高校に進学し、バスケットボール部顧問の畑岡英樹先生（日体大卒）との出会いでバスケットボールに夢中になり、体育指導者をめざして1977年に日体大に入学。プレーヤーと同時にコーチの勉強をはじめ、岡田さんが師と仰ぐ稲垣安二先生（日体大バスケットボール部監督）から理にかなった戦術を学び取り、指導者としての将来像を描きながら次のステージへ夢を膨ませていきました。



◆水を得た魚の如く◆

大学卒業後、体育施設職員、私学の高校教員を経験。しかし、バスケットボールの指導ができない時期が続きました。1985年に姫路学院女子短大児童教育科の教員となり、念願のバスケットボール部を創設。一年目は、ゼロからの出発で、バスケットボールを少しでも経験したことがある者や運動することが大好きな学生に声をかけ7人でスタート。中学生との練習試合でも負けていたチームが創部二年目には、関西女子学生バスケットボール連盟5部（最下部）リーグで優勝。それ以降、各リーグで優勝を重ねていく姿に、県内外の高校生をはじめバスケットボール関係者から「姫学へ行けばバスケットボールができる、選手の才能を伸ばしてもらえる」といった声が聞こえはじめ、学生時代から温めてきたコーチングが一気に開花し、まるで水を得た魚のような見事な指導ぶりで念願の一部リーグに進出。関西トーナメントでベスト8になるなどメキメキと頭角を現し、たとえ成績が低迷しても指導者である自身と選手が一緒に省察し、壁を乗り越え続けたことで、播磨地方の小さな姫路学院女子短大でも大きな成果を残すことができたそうです。

◆深い学びのはじまり◆

姫路学院女子短大の学生募集停止を受け、1998年に静岡県の常葉短期大学へ移り、幼児教育の教員として教鞭をとりながら再び、ゼロからバスケットボール部を立ち上げ、東海学生女子バスケットボール連盟4部リーグ（最下部）からのスタート。姫学時代の経験を活かした指導で二年目から勝ち始め、とんとん拍子で2部に昇格。バスケットボールのA級コーチライセンスの取得にとどまらず、スキー指導員資格取得など指導者としての学びを続けている頃、2003年に地元、静岡で開催される静岡国体（現国スポ）で成年女子の監督に抜擢され、実業団の経験がある選手の指導をすることになり、大学生とのレベルの差を痛感したことで、より深い指導についての勉強が始まりました。2006年に活動の場を再び関西に移し、大阪国際大学短期大学部教員として幼児教育を担当しながらバスケットボール部監督に就任。これまでのコーチングに関わる学びを活かして二年目には関西女子学生1部リーグへ昇格し、さらなる夢を追い続けていきました。

◆温めていた夢と志の有言実行◆

大学教員を続ける中、バスケットボールの魅力を広く世間に拡大できないものか、地域づくりと一貫した強化体制が構築できないものかと自ら問いを立て、夢や志を語ると同時に、人の縁や地縁を頼りに着々と行動に移しはじめていきました。

幸いなことに自身の弟（岡田隆人氏）が播磨地区を拠点に女子社会人サッカーチームの経営に携わっていたこともあり、弟とタッグを組みながら女子社会人バスケットボールチーム・AC播磨イーグレッツを自身がヘッドコーチとなって創設。2014年に兵庫県実業団連盟、2018年には、西日本地域リーグに参入し、自身の生まれ育った播磨地区でミニバスケット・中学・高校・大学・社会人をつなぐ一連の強化システム（スポーツピラミッド）を実現していきました。地方都市の姫路を中心とした播磨地区からWリーグ参入という大きな目標を周囲に語ることで、自分自身にプレッシャーをかけながら気持ちを奮い立たせ、地域のスポンサー企業へチームのミッションやビジョンを提示していくことで、敢えて引くに引かれない状況をつくり、有言実行でとにかく前へ前へと進み大きな夢を追い続けました。



◆念願のWリーグ（女子日本リーグ）参入◆

廃校になった中学校の小さな体育館を拠点にチーム名を姫路イーグレッツと改名。

東京の日本バスケットボール協会に自ら足を運んでチームのビジョンなどを説明し、「どうしたらWリーグに参入できますか」と勇気を振り絞って語り続けていったところ、その熱意のあるプレゼンの姿や地域おこし、地域企業との互恵関係等の施策が高く評価され、企画書や運営資金に係る書類等の提出によって遂にWリーグへの参入が認められ、2022―2023シーズンに見事にその夢を実現し、関西以西のチームが二十年ぶりにWリーグに参入するという歴史的な快挙を成し遂げ、スポーツによる地域おこしにも貢献しました。

◆新たな挑戦◆

念願のWリーグ参入後、大阪国際大学定年退官を契機にイーグレッツの指導から離れ、運営を弟の隆人氏に託し、2024年から行政機関との連携を軸に大阪府茨木市で豊かな共生社会の実現に向けた児童発達支援・放課後等デイサービス事業を展開。

スポーツと共通していることは、自分を活かしながら社会の一端を支えていきたいという思いだそうです。日体大での経験と家族の支えがあれば何歳になっても、何にでも挑戦する力が湧いてくるそうです。

【編集後記】取材をさせていただいて、夢を追いながらその時その時の状況に応じて、一歩一歩チャレンジを繰り返していくことの大切さを学ばせて頂きました。バスケットボールの魅力を多方面に伝え、広げていった岡田さんの姿に拍手を贈りたいと思います。
令和八年十月　文責 谷川彰一